



JT Group

2025年度 第1四半期 決算説明会

古川博政

JT Group CFO

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。

※用語の定義については、スライド13以降に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意



本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「**考えています**」「**見込んでいます**」「**予想しています**」「**予想しています**」「**予見しています**」「**計画**」「**戦略**」「**可能性**」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。

その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

1. 喫煙に関する健康上の懸念の増大
2. たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
3. 国内外の訴訟の動向
4. たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
5. 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
6. 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
7. 買収やビジネスの多角化に伴う影響
8. 国内外の経済状況
9. 為替変動及び原材料費の変動
10. 自然災害及び不測の事態等

塩野義製薬株式会社への当社医薬事業の承継及び鳥居薬品株式会社の株式譲渡



- 2025年5月7日、当社の医薬事業を会社分割により塩野義製薬へ承継すること、並びに塩野義製薬による鳥居薬品株式の公開買付け及び鳥居薬品による自己株式取得等を通じて当社保有の鳥居薬品株式を譲渡することに関し、塩野義製薬との間で合意書を締結
- 本日開示した会社分割プレスリリース及び子会社異動プレスリリースに係る取引により、2025年度の当社連結業績において、親会社の所有者に帰属する当期利益が約60億円減少する見通し
- 本件が予定通り進捗した場合、2025年第3四半期から鳥居薬品を含む医薬事業は非継続事業に分類される見込みであり、上記の約60億円についても非継続事業にて計上する予定
- 当期配当の算定にあたっては継続事業ベースでの配当性向を基に決定する予定であるため、当該取引による配当への影響はなし
- たばこ事業及び加工食品事業の位置付けに変更はなし。引き続き、たばこ事業は利益成長の中核かつ牽引役と位置づけ、加工食品事業については全社利益成長を補完する役割を担い、グループ全体でJT Group Purposeの実現と中長期に亘る持続的利益成長を目指す



SHIONOGI



2025年度 第1四半期実績：たばこ事業が力強い利益成長を牽引



(億円)	2025年 1-3月	前年同期比
為替一定ベース		
Core revenue	8,073	+13.3%
調整後営業利益	2,738	+20.8%
財務報告ベース		
売上収益	8,270	+11.7%
調整後営業利益	2,666	+17.6%
営業利益	2,488	+15.3%
四半期利益	1,575	+0.1%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

売上収益・調整後営業利益

- 売上収益は、主にたばこ事業におけるプライシング効果が牽引し大幅な増収
- 調整後営業利益は、たばこ及び医薬事業における増益により力強い成長

為替影響（たばこ事業）

- 円安によるポジティブな影響はあるものの、一部新興国通貨安及びコスト関連通貨の影響を主因に調整後営業利益においてネガティブに発現

営業利益

- VGR*買収に伴う無形資産償却費の増加があるものの、調整後営業利益の成長により増益

四半期利益

- 営業利益の増加が金融損益の悪化及び法人所得税費用の増加を相殺し、前年同期と同水準

たばこ事業 数量実績：好調なシェアモメンタムが継続。RRP販売数量は二桁の成長



(億本)	2025年 1-3月	前年同期比
総販売数量	1,344	-1.3%
Combustibles 販売数量	1,314	-1.7%
GFB販売数量	957	-1.0%
RRP販売数量	30	+19.0%
HTS販売数量	23	+27.7%

Combustibles

- 多くの市場においてシェアモメンタムが継続
- EMAクラスターにおける力強い数量成長
 - VGR買収効果
 - 複数市場における堅調な総需要
 - Global Travel Retailの継続的な伸長
- 日本、フィリピン、英国等の主要市場におけるCombustibles総需要の減少

RRP

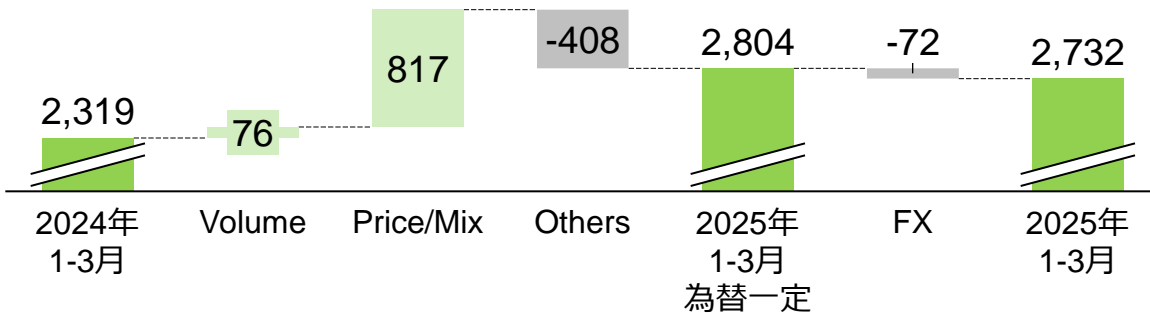
- 日本及び海外市場におけるPloomの着実な数量・シェアの伸張

たばこ事業 財務実績：プライシング効果が投資強化及びコスト増の影響を上回る



(億円)	2025年 1-3月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	7,385	+13.0%
(同 為替一定)	7,451	+14.0%
調整後営業利益	2,732	+17.8%
(同 為替一定)	2,804	+20.9%

調整後営業利益 増減要因 (億円)



注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

Volume

- 主にVGR買収に伴う数量増及び市場構成比の改善により数量効果はポジティブ

Price/Mix

- フィリピン・ロシア・英国を中心に多くの市場においてプライシング効果が力強く発現

Others

- Ploomへの投資強化
- インフレに伴うサプライチェーンコストの増加

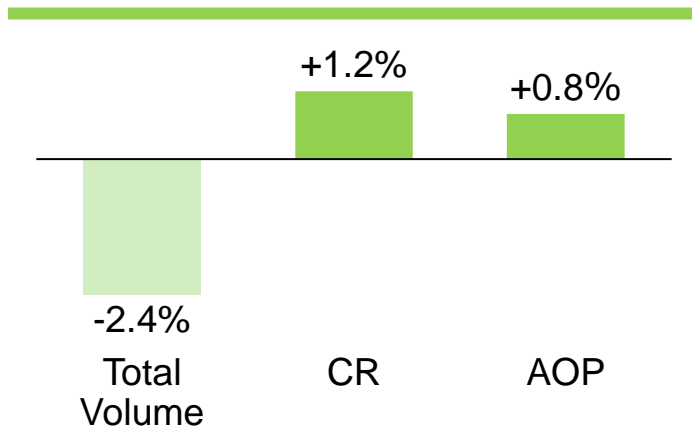
FX

- 円安によるポジティブな影響はあるものの、一部新興国通貨安及びコスト関連通貨の影響を主因に調整後営業利益においてネガティブに発現

たばこ事業：クラスター別実績



ASIA



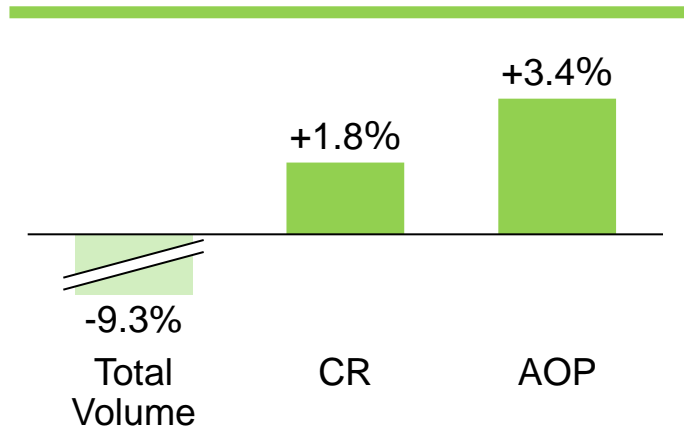
Total Volume

- 台湾等における市場シェア伸張
- 日本におけるPloomの伸長
- 日本・フィリピン・台湾におけるCombustibles総需要の減少

CR/AOP

- 主にフィリピンにおいて発現したプライシング効果が、ネガティブな数量効果を相殺
- Ploomの投資強化
- インフレに伴うサプライチェーンコストの増加

WESTERN EUROPE



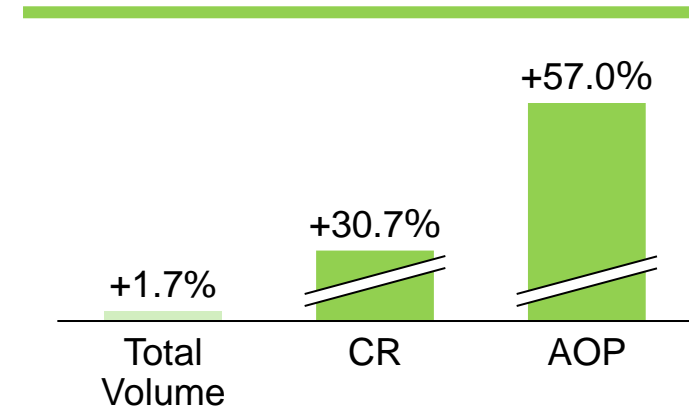
Total Volume

- 複数市場における市場シェア伸張
- Ploomの継続的なシェア伸張
- 英国等におけるCombustibles総需要の減少及びネガティブな流通在庫調整影響

CR/AOP

- イタリア・英国を中心に発現したプライシング効果が、ネガティブな数量効果を相殺
- Ploomの投資強化
- インフレに伴うサプライチェーンコストの増加

EMA



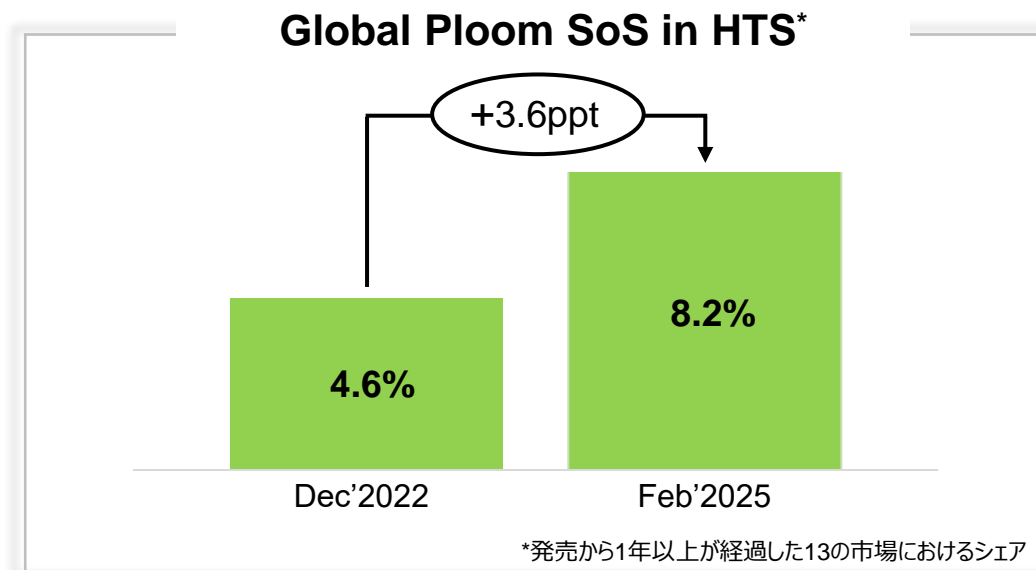
Total Volume

- VGR買収効果
- 複数市場における堅調な総需要/市場シェアの伸張
- Global Travel Retailの継続的な伸長

CR/AOP

- VGR買収効果によるポジティブな数量効果
- 複数市場でプライシング効果が発現
- Ploomの投資強化
- インフレに伴うサプライチェーンコストの増加

たばこ事業：新型Ploomを日本においてローンチ

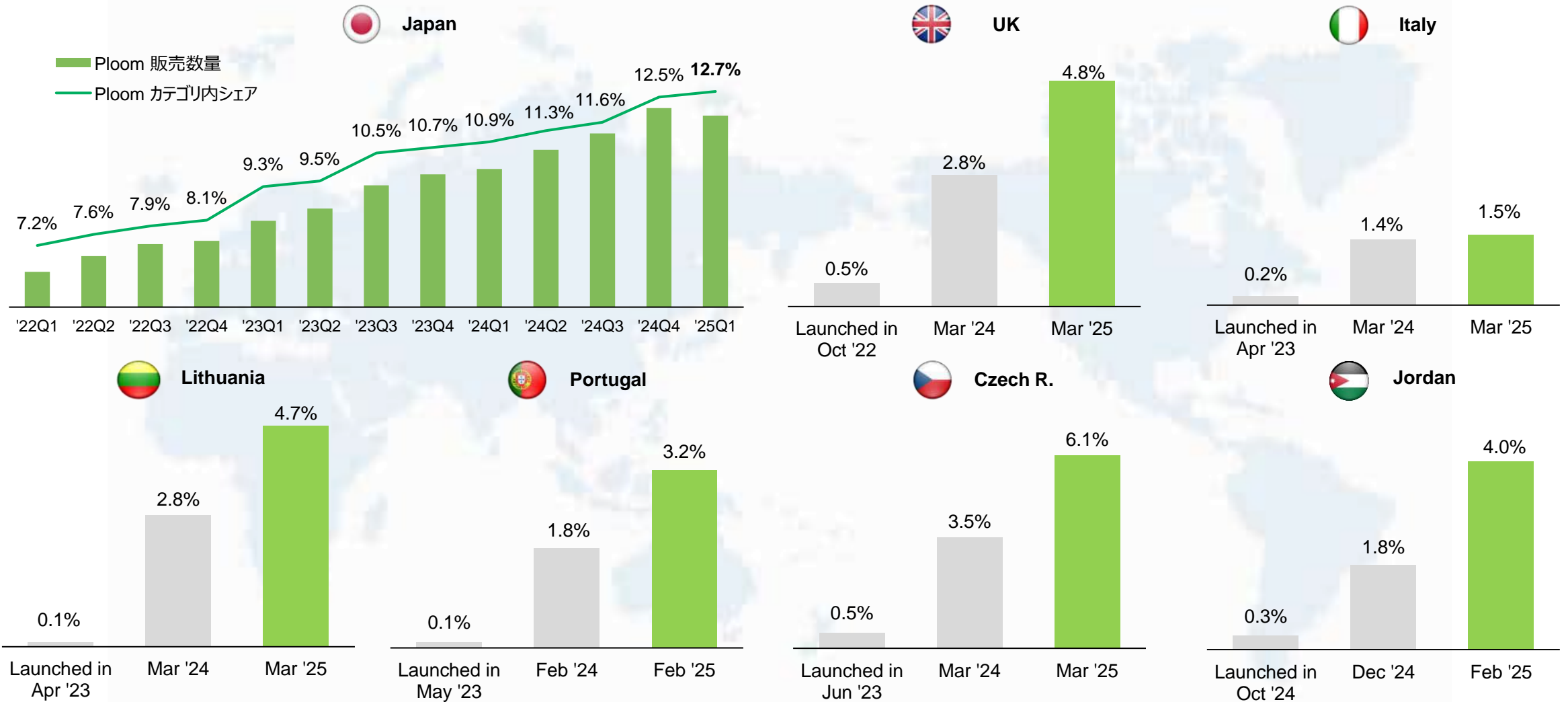


- 日本を皮切りに新型Ploomデバイス及びプレミアムブレンドのスティックを発売予定。5月27日に新製品発売に関するプレスカンファレンスを開催
- PloomのHTSカテゴリ内シェアは各市場で引き続き伸張し、8.2%に到達（2022年度比 +3.6ppt）
- RRP中期展望である2028年末までの10%台半ばのカテゴリ内シェア獲得に向けて順調に進捗。新型Ploom投入により、一層のシェア拡大を目指す

たばこ事業 Ploom Global Overview : カテゴリ内シェアの着実な成長が継続



PloomのHTSカテゴリ内シェア 1) 2)



1) 日本のシェアは四半期ベースのカテゴリ内シェア 2) Jordanのみローンチエリアにおけるカテゴリ内シェア。その他市場はナショナルベース

医薬事業

(億円)	2025年 1-3月	前年同期比 増減
売上収益	254	+20
調整後営業利益	45	+7

売上収益

- 鳥居薬品株式会社における皮膚疾患領域及びアレルギー領域の売上伸長に加え、円安に伴う海外ロイヤリティ収入の増加により、増収

調整後営業利益

- 売上収益の増加が販管費の増加を上回り、増益

加工食品事業

(億円)	2025年 1-3月	前年同期比 増減
売上収益	365	+8
調整後営業利益	8	-12

売上収益

- 価格改定に加え、冷食・常温事業の一部製品の販売伸長により、増収

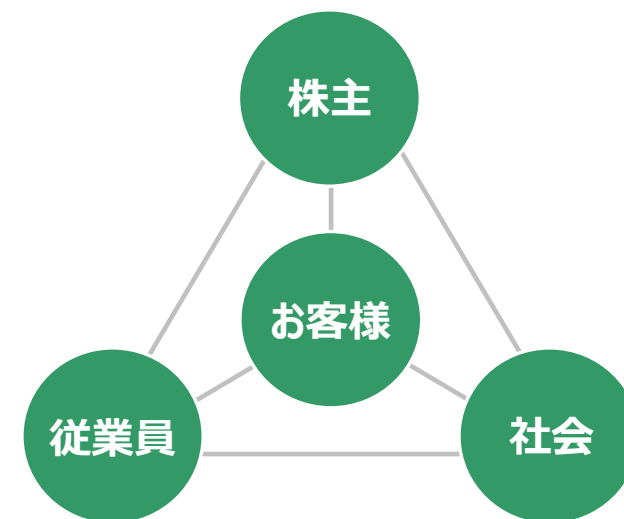
調整後営業利益

- 売上収益は増加したものの、原材料費の高騰等により、減益

Closing remarks

- たばこ事業におけるプライシング効果が堅調に発現し、力強いトップライン成長を実現。全社為替一定調整後営業利益は前年同期比20.8%の成長
- 第1四半期を通じてたばこ事業の好調なモメンタムを確認。為替についても期中は当初計画比でポジティブに推移。通期業績見込の達成に向けて順調なスタート
- 為替動向および経済情勢は非常にボラティリティが高い状況。事業・財務への影響を精査しつつ、必要に応じて第2四半期以降の決算において通期業績見込を更新
- 5月27日に新型Ploomに関するプレスカンファレンスを予定

心の豊かさを、
もっと。



<用語の定義>



調整後営業利益	営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラチャリング収益及び費用等
為替一定ベース	前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。 ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
為替一定ベースcore revenue (全社)	為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益
自社たばこ製品売上収益	物流事業／製造受託等を除く売上収益
四半期利益／当期利益	親会社の所有者に帰属する四半期利益／当期利益
Reduced-Risk Products (RRP)	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品 当社製品ポートフォリオにおける加熱式たばこ／E-Vapor／無煙たばこ製品等が含まれる
Heated tobacco products (HTP)／加熱式たばこ	たばこ葉を使用し、たばこ葉を燃焼させずに、加熱等によって発生するたばこベーパー（たばこ葉由来の成分を含む蒸気）を愉しむ製品
Heated tobacco sticks (HTS)	高温加熱型の加熱式たばこ製品。1スティック当たりRMC1本として換算
Combustibles	製造受託／RRPを除く燃焼性のたばこ製品

<用語の定義>

総販売数量

製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリーを除くたばこ製品の販売数量

Combustibles販売数量

製造受託／RRPを除く燃焼性のたばこ製品の販売数量

RRP販売数量

RMCとして換算したRRPの販売数量。ただし、デバイス／関連アクセサリー等は含まない

HTS販売数量／Ploom販売数量

RMCとして換算したHTS（Ploom）の販売数量。ただし、デバイス／関連アクセサリー等は含まない

Global Flagship Brands
(GFB)

Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド